

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
50	川崎市立新城小学校	伊東 芳男

学校教育目標	今年度の重点目標
「心も強く 体も強い子」 ☆健康でたくましい子(体・態) ※態は態度 ☆よく考え進んで行動する子(知) ☆仲良く助け合う子(徳)	①健康でたくましい子の育成 ②よく考え進んで行動する子の育成 ③仲良く助け合う子の育成 ④開かれた学校づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 健康でたくましい子の育成	①授業、行事、休み時間等を通して、学校生活や家庭生活の中に、外遊びや運動の定着を図っていく。 ②保健教育と食育を通して、健康や安全についての関心・意欲・態度を育てる。 ③防災・防犯教育、交通安全指導等を通して、「自分の身は自分で守る」ための資質や能力を育てる。 ④全教育活動を通して、子どもの精神的な自立に向けた指導と支援に取り組む。 ⑤支援教育Coを核とした児童・保護者支援体制づくり。	①キラキラタイムは運動の得意や苦手にかかわらず活動を中心にっており、多くの児童が楽しんでいる。委員会が休み時間に主催した休み時間の大会には意欲的に参加している児童が多い。 ②保健委員会では手洗いチェッカーを作り、休み時間や朝の時間を活用したり、手洗い動画を作成し、手洗いの大切さを伝えていた。食育については、栄養士とも連携をとって学活として行った。児童の食への意識が高まっている。 ③様々な状況下で訓練を重ねることで、自分で判断して自分の身は自分で守るという意識が芽生え始めている。今年度は引き取り訓練や、洪水に対する訓練に加え、防犯訓練も行うことができた。 ④学校説明会や懇談会等を通して、子どもの精神的な自立に向けた指導と支援の重要性について保護者に発信してきたことで、保護者と協力して児童の精神的な自立に向けた教育が推進されている。 ⑤支援教育Coと学年・学級担任が情報共有を行い、丁寧に個に応じた支援体制を心がけ実践している。	①より楽しく活動できるように、キラキラタイムをはじめ委員会の活動内容を精選していく必要がある。児童の気持ちや外遊びに向かうように、授業内容とも連携しながら教師が意図的に声かけを行ったり、一緒に遊んだりする活動を継続していく。何より、楽しい体育の充実が課題であり、研修などの教材研究を深めていきたい。 ②健康や安全についての関心・意欲・態度を育てるためには、保護者の意識向上も不可欠である。学校便りや保健便りを通してその意義や意味について発信していく。栄養士との連携を深め、打ち合わせ時間を確保して学年に応じた食育に関する授業実践を継続して行うようにする。 ③6年間を見通した防災教育の授業実践を積み重ね、新城小防災教育計画を策定していく。 ④さらに一人一人に合った支援を行っていけるように研修会を開いたり、ケース会議を行ったり、学年会で話し合ったことを学校全体で情報共有をしたりする取り組みを今後も継続していく。
2 よく考え進んで行動する子の育成	①「川崎市子どもの権利」に関する条例をふまえた人権尊重教育のさらなる充実を図りながら、人に対して優しい心配りや言葉遣いができるあたたかな人間関係を作っていく。 ②特別の教科「道徳」の目指す「考え、議論する」道徳教育への転換を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ③共生＊共育プログラムを通して、どの子にとっても居心地のよい学級集団づくりを目指していく。 ④外国語活動の充実 ⑤委員会活動・クラブ活動の充実	①「川崎市子どもの権利」に関する条例をふまえた人権尊重教育のさらなる充実を図りながら、人に対して優しい心配りや言葉遣いができるあたたかな人間関係を作っていく。 ②特別の教科「道徳」の目指す「考え、議論する」道徳教育への転換を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ③共生＊共育プログラムを通して、どの子にとっても居心地のよい学級集団づくりを目指していく。 ④日常の委員会の放送などでも英語を取り入れるなど、外国語に慣れ親しめる環境になるよう外国語専科の日ごろからの声かけが行われている。 ⑤子供たちのアイデアを活かした自主的な活動が増え、よく考え進んで行動する子が増えてきている。	①将来の社会的な自立に向け必要な能力や態度を育てる「新城小キャリア在り方生き方教育」全体構想を、教育活動全体を通して次年度検討を行い推進していく。 ②新学習指導要領が目指す資質・能力育成と「主体的・対話的で深い学び」についての理解を深め実践していく。 ③新指導計画を実践し検証して、次年度に生かしていく。 ④より児童が意欲的に活動できるような教育活動を今後も模索し、次年度も実践していく。 ⑤自主的な活動になるように、教員側の支援する体制を整える。

3	仲良く助け合う子の育成	<p>①「川崎市子どもの権利」に関する条例をふまえた人権尊重教育のさらなる充実を図りながら、人に対して優しい心配りや言葉遣いができるあたたかな人間関係を作っていく。</p> <p>②特別の教科「道徳」の目指す「考え、議論する」道徳教育への転換を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p> <p>③共生＊共育プログラムを通して、どの子にとっても居心地のよい学級集団づくりを目指していく。</p> <p>④英語専科やALTを活用した外国語活動の充実</p>	<p>①「いのち」「こころ」を大切にすることや態度が児童の中に育っていると感じている。特に、普通学級と特別支援学級との交流を通し、助け合う・協力し合う姿勢が全学年から感じられる。しかし、低学年ではまだ十分に互いを尊重しあうことが難しい場面も見られる。生活アンケートを通して、児童の実態を把握することでいじめの早期発見につなげている。</p> <p>②「考え、議論する」道徳教育への転換に向けて、評価も含め、積極的に授業研究を通して取り組んできた。講師から、様々なアドバイスを受けそれを生かしていくことが必要である。</p> <p>③教育課程の中に、エクササイズがしっかりと位置づけられ、居心地の良い学級集団づくりに努めていることで、友達の輪を広げている様子を実感することができている。</p> <p>④英語専科やALTと連携を取り、児童が意欲的に学ぶ姿が見られる。</p>	<p>①何よりも、教師自身の人権感覚を磨いていくことが大切である。児童の実態や発達段階に応じて適切に系統的・計画的に指導していくための職員研修を継続的に行っていくとともに、職員が人間関係をしっかりと築けるような学校経営を進めていきたい。いじめの早期発見については、アンケートの実施方法や活用方法を具体的に見直していく。</p> <p>②「考え、議論する」道徳教育への転換を図っていくために、講師からのアドバイスや他校の授業実践などを生かし、実践へと結び付けていきたい。</p> <p>③効果的なエクササイズについての情報交換を活発に進めていく。</p> <p>④次年度も児童が意欲的に学べるように、連携や準備を行っていく。</p>
4	開かれた学校づくり	<p>①「新城」というまちのもつよさを最大限に生かした教育活動をつくりあげていく。</p> <p>②地域や保護者、企業等の支援を積極的に活用した学習活動と学校行事の充実を図っていく。</p> <p>③地域に対する感謝の気持ちを持ち、その気持ちを具体的な態度や行動として表す活動をつくりだしていく。</p>	<p>①②地域、保護者等からいただいた意見を教育活動に生かせるように努めた。また、今年度はSDGsの観点からも地域協力者と一緒に、「新城」というまちのもつよさを最大限に生かしながら、学年に応じた充実した学習活動を行うことができた。こうした活動が単発の学習にならないうちに、全学年で横断的な学習になるように工夫してきたことで、「新城」を愛する気持ちが児童の中に育ってきている。また、幼保小の連携を勧めている。</p> <p>③地域の中でお世話になった方々へお手紙を届ける、地域の伝統芸能を知ってもらう活動を自主的に行う姿が見られた。</p>	<p>①②学校教育推進会議、PTA運営委員会、学校評価でいただいた意見を児童のより良い教育活動となるように生かしていく。また、地域や保護、企業等の支援を協力者やこの学習を継続的に行うには、取り組みを形骸化させず、学習の意味や意義を問い直し続けていくことが必要である。幼保小の連携を深められるような活動を取り入れる。</p> <p>③地域へ感謝の気持ちももてるような活動に各学年が確実に取り組み、それを他学年へ発信し、取り組みの良さを共有できるようにしていく。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ ・ 次年度へ向けて
<p>学校評価の結果からみると、学校の経営方針を保護者や地域の方々にはしっかりと理解していただき、学校への協力体制が整っていると言える状況がここ数年続いている。新型コロナウイルスが5類に変わり、通常の授業参観や懇談会が開催できる環境に戻ってきている。運動会も多くの保護者や地域の方に見てもらうことができた。これからも学校の様子を積極的に伝えていきたい。学校だよりや学級だよりでの情報の伝達、HPの充実を図っていきたい。このことも開かれた学校につながっていると考える。</p> <p>今年度は参集型での学校教育推進会議となった。学校評価アンケートの内容の見直し、あいさつ運動で感じる子供たちの様子、市政100周年への取り組みなど、さまざまな意見をいただいた。これらを生かしていくことで、関係者との協力体制はより強固になってきていると感じている。</p>	<p>今年度は、コロナ禍が明け、通常に戻った学校生活だった。しかし、コロナ禍での生活様式からマスクを外せない子がいたり、友だちとのかわりに悩む子がいたりと感じている。一方で、SDGsに対する取り組みの活発化や委員会活動などでの積極的な姿勢が目立つようになってきている。</p> <p>学校評価に関しては、学校教育目標に照らし合わせながら項目を検討してアンケートをとった。保護者や地域の方、また、児童からの評価は、概ねどの項目もよかった。</p> <p>今年度はSDGsに対して、学習したことを行動化していくことを目標にしてきた。地域で生活し、地域から学び、地域を愛せる気持ちが高まってきている。また、外部人材を活用した教育活動にも積極的に取り組んできた。大学と提携したセンサリーマップの取り組みは、川崎SDGs大賞の優秀賞を受賞した。</p> <p>今後も、基本的な指導や対応の姿勢・考え方を教職員が共通理解し実践していることが、全教育活動を支えていく上で大切になっていく。また、本校の伝統も大切にしながら児童にとってより良い活動を生み出せるように、地域の方や保護者の方の声や力を生かしていける組織づくりに努めていきたい。</p>